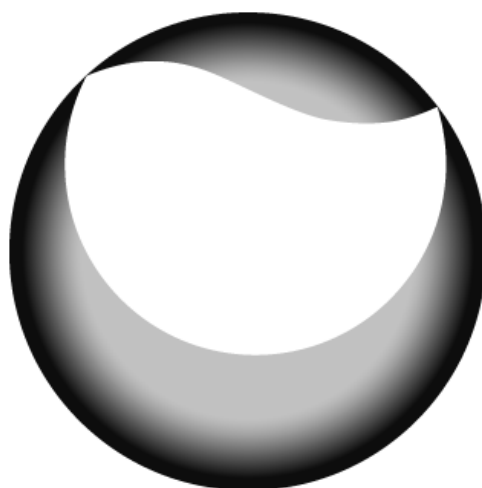


証券コード
4568

決算短信補足資料

(2010年3月期決算)



Daiichi-Sankyo

2010年5月12日

第一三共株式会社

<http://www.daiichisankyo.co.jp>



DAIICHI SANKYO CO., LTD.

2010年3月期 補足資料目次

【2】補足資料

1. 損益計算書推移	P1~2
2. 為替レート	P3
3. グローバル製品売上高	P3
4. 海外売上高	P4
5. セグメント別情報（事業別）	P4
6. セグメント別情報（所在地別）	P4
7. 主要会社の状況	P5~8
8. 要員数の推移	P9
9. 主要経営財務指標	P10
10. 設備投資および減価償却費	P10
11. 単元株式の所有者別状況	P10
12. 連結貸借対照表	P11~12
13. 連結キャッシュ・フロー計算書	P13
14. 主要開発パイプラインの状況	P14~17

ご参考：ヒストリカルデータ

2010.5.12



第一三共株式会社

コーポレートコミュニケーション部

1. 損益計算書推移

〈第一三共グループ全社損益〉

(単位：億円)

	2009年度実績						
	第4四半期		年度		対公表 (1月)	前同 増減	増減 (対前年同期)
売上高	〈5.6〉 100.0 2,264		〈13.1〉 100.0 9,521		-79	1,100	
売上原価	28.9	654	29.2	2,780	-70	636	原価率 +3.7P ランバクシー社の連結 +2.4P、為替の影響 +0.6P
販管費	68.7	1,556	60.8	5,786	-4	397	
研究開発費	24.3	551	20.7	1,968	28	123	エドキサバン等の開発プロジェクト費用増加
研究開発費以外の販管費	44.4	1,005	40.1	3,818	-32	274	ランバクシー社の連結 +351億円 欧米子会社等での販促費圧縮等
営業利益	〈->〉 24 54		〈7.5〉 100 955		-5	66	
営業外収益		91		282	-8	159	ランバクシー社の為替デリバティブ評価益等
営業外費用		21		206	-44	-254	ランバクシー社関連：前期 為替デリバティブ評価損計上 ランバクシー社以外：為替差損・疑似ストックオプション評価損の減少
経常利益	〈->〉 5.5 125		〈86.9〉 10.8 1,031		31	479	
特別利益		21		59	9	21	
特別損失		81		116	26	-3,556	前期はランバクシー社の のれん減損3,513億円を計上
税引前利益	2.8	64	10.2	974	14	4,056	
当期純利益	〈-96.8〉 1.2 26		〈->〉 4.4 419		-31	2,574	法人税等 500億円 (税率：51.4%) 過年度税金計算の修正 75億円 試験研究費税額控除の不適用 等により税率アップ 少数株主利益 55億円

〈ランバクシー社の業績〉

	2009年度実績				
	第4四半期		年度		前同 増減
売上高	〈15.1〉 100.0 445		〈279.5〉 100.0 1,467		1,080
売上原価	40.6	181	51.4	754	549
販管費	43.4	193	44.3	649	474
研究開発費	7.9	35	7.0	103	77
研究開発費以外の販管費	35.5	158	37.2	546	396
営業利益	〈->〉 16.0 71		〈->〉 4.3 63		57
営業外収益		87		211	197
営業外費用		7		145	-115
経常利益	〈->〉 34.0 151		〈->〉 8.9 130		369
特別利益		13		13	12
特別損失		1		1	-2
税引前利益	36.8	164	9.7	142	383
当期純利益	〈->〉 16.0 71		〈->〉 2.9 42		204

(単位：億円)

	2010年度予想						備考
	第2四半期 累計期間		前同 増減	年度		前同 増減	
売上高	<4.1>			<2.9>			海外売上高予想：5,070億円 ランバクシー社売上高予想：1,650億円
	100.0	4,900	194	100.0	9,800	279	
売上原価	29.4	1,440	68	29.6	2,900	120	
販管費	60.4	2,960	135	61.2	6,000	214	
研究開発費	20.8	1,020	79	21.4	2,100	132	
研究開発費以外の販管費	39.6	1,940	56	39.8	3,900	82	
営業利益	<-1.7>			<-5.8>			
	10.2	500	-9	9.2	900	-55	
営業外損益		-20	-34		-50	-126	
経常利益	<-8.2>			<-17.6>			
	9.8	480	-43	8.7	850	-181	
特別損益			-14			57	
税引前利益	9.8	480	-57	8.7	850	-124	
当期純利益	<33.7>			<7.5>			ランバクシー社当期純利益予想：60億円
	5.1	250	63	4.6	450	31	

<ランバクシー社関連償却費および連結調整の影響>

	2009年度実績		
	第4四半期	年度	前同 増減
売上高			
売上原価			-18
販管費	15	60	-115
研究開発費			-69
研究開発費以外の販管費	15	60	-46
営業利益	-15	-60	133
営業外収益			
営業外費用			
経常利益	-15	-60	133
特別利益	0	0	0
特別損失			-3,513
税引前利益	-15	-60	3,646
当期純利益	38	28	2,520

<ランバクシー社関連影響除外後の業績>

	2009年度実績		
	第4四半期	年度	前同 増減
売上高	<3.4>		
	100.0	1,819	19
売上原価	26.0	473	105
販管費	74.1	1,348	38
研究開発費	28.4	516	114
研究開発費以外の販管費	45.7	832	-77
営業利益	<-11.5>		
	-0.1	-2	-124
営業外収益	4		-38
営業外費用	14		-139
経常利益	<-2.3>		
	-0.6	-11	-22
特別利益	8		9
特別損失	81		-40
税引前利益	-4.7	-85	27
当期純利益	<-30.2>		
	-4.6	-83	-151

2.為替レート

	2008年度	2009年度		2010年度		
	年度実績	当初予想	年度実績	年度予想	1円の為替変動による 年間業績へのインパクト	
USD/円 (期中平均)	100.5	95.0	92.9	90.0	売上高 営業利益	約25億円 約2億円
EUR/円 (期中平均)	143.5	120.0	131.2	120.0	売上高 営業利益	約7億円 約1億円

3. グローバル製品売上高

(単位：億円)

	2009年度実績				2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	年度	前同 増減
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<19.0> 583	<12.9> 2,383	3	272	<9.1> 2,600	217
オルメテック (日本)	<12.5> 162	<20.0> 772	-8	129	<11.4> 860	88
レザルタス (日本)	-	-	-	-	<-> 50	50
ベニカーHCT / ベニカー (米国)	<11.7> 219	<1.8> 889	9	16	<0.6> 895	6
エイソール (米国)	<29.7> 29	<47.2> 128	-2	41	<1.7> 130	2
オルメテックプラス / オルメテック (欧州)	<17.7> 114	<6.5> 399	-11	24	<2.7> 410	11
セビカー (欧州)	<156.5> 20	<189.3> 63	8	41	<50.0> 95	32
その他子会社/輸出等	<71.4> 37	<19.2> 131	11	21	<21.8> 160	29
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-3.5> 218	<-10.7> 872	27	-105	<-19.7> 700	-172
クラビット (日本)	<17.5> 114	<1.5> 436	36	6	<-24.4> 330	-106
輸出等	<-29.5> 50	<-31.5> 213	-12	-98	<-24.8> 160	-53
特許料	<-8.8> 36	<-9.3> 146	1	-15	<-14.3> 125	-21
その他子会社	<-2.2> 18	<2.2> 77	2	2	<10.7> 85	8
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-14.9> 105	<-9.6> 550	-10	-58	<-20.0> 440	-110
メパロチン (日本)	<-14.7> 85	<-8.9> 462	-8	-45	<-19.9> 370	-92
その他子会社/輸出等	<-15.7> 20	<-12.8> 88	-2	-13	<-20.6> 70	-18
プラスグレール (共同販促収入) 【抗血小板剤】	<-> -7	<-> 5	-	5	<-> -	<-> -
エフィエント (米国)	<-> -11	<-> 1	-	1	<-> -	<-> -
エフィエント (欧州)	<-> 4	<-> 5	-	4	<-> -	<-> -

プラスグレールの共同販促収入は実績値のみ開示しております。

プラスグレール共同販促収入の本補足資料における開示を見直した結果、第3四半期までの修正額 -10億円 (従前開示 11億円、修正開示 1億円、修正額 -10億円) を第4四半期実績に含めております。
なお、連結売上高等業績は従前より正しく計上しており、変更ありません。

イーライリリー・アンド・カンパニー社の2009年4月~2010年3月のプラスグレール全世界売上高は約35.5百万ドル、そのうち米国分の売上高は約27百万ドルであります。

4. 海外売上高

(単位：億円)

	2009年度実績			
	第4四半期		年度	
		前同 増減		前同 増減
海外売上高	<12.6>		<29.2>	
対売上高比率	1,292	145	4,823	1,091
	57.0%		50.7%	
北米	<18.1>	669	103	<11.7>
欧州	<3.0>	315	9	<19.7>
その他	<11.8>	308	33	<118.7>
			1,176	638

5. セグメント別情報（事業別）

(単位：億円)

	2009年度実績			
	第4四半期		年度	
		前同 増減		前同 増減
連結売上高	<5.6>		<13.1>	
医薬品事業	2,264	119	9,521	1,100
国内医療用医薬品	<5.6>	2,257	119	<13.1>
海外医療用医薬品	<-1.6>	872	-14	<1.0>
ヘルスケア	<12.7>	1,295	146	<29.4>
その他事業	<-14.1>	86	-14	<-7.4>
	<-2.9>	8	0	<-3.3>
連結営業利益	<->		<7.5>	
医薬品事業	54	146	955	66
その他事業	<->	49	152	<8.4>
	<4.3>	5	0	<-0.2>
			22	0

6. セグメント別情報（所在地別）

(単位：億円)

	2009年度実績			
	第4四半期		年度	
		前同 増減		前同 増減
連結売上高	<5.6>		<13.1>	
日本	100.0	2,264	119	100.0
北米	<-3.1>	48.2	1,092	-35
欧州	<24.1>	26.8	607	118
インド	<6.7>	12.1	275	17
その他	<-1.1>	6.7	151	-2
	<17.5>	6.2	140	21
連結営業利益	<->		<7.5>	
日本	54	146	955	66
北米	<-3.1>	48.2	1,092	-35
欧州	<24.1>	26.8	607	118
インド	<6.7>	12.1	275	17
その他	<-1.1>	6.7	151	-2
	<17.5>	6.2	140	21
日本				405
北米				471
欧州				91
インド				45
その他				33

7. 主要会社の状況

7-1. 第一三共単体

(単位：億円)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
国内医療用医薬品合計	<-1.9> 845	<1.4> 4,123	-27	56		<0.7> 4,150	27
オルメテック 【高血圧症治療剤】	<12.5> 162	<20.0> 772	-8	129	競争の激しい市場において、降圧効果、臓器保護作用が評価され、引き続き市場の伸びを大きく上回る拡大を示し、大幅な増収。	<11.4> 860	88
レザルタス 【高血圧症治療剤】	-	-	-	-	(2010年4月16日発売。)	<-> 50	50
カルブロック 【高血圧症治療剤】	<4.7> 29	<12.8> 137	-3	16	降圧効果の持続性のプロモーションに加え、腎保護作用が評価されたことにより処方拡大。	<2.3> 140	3
アーチスト 【高血圧症治療剤】	<1.9> 50	<6.5> 233	-7	14	慢性心不全に唯一適応のあるβ遮断薬として心臓疾患を中心に処方拡大。	<-3.5> 225	-8
メバロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-14.7> 85	<-8.9> 462	-8	-45	スタンダードスタチンとしての有用性訴求を実施中。一方、後発品処方拡大や競合ストロングスタチンの攻勢により減収。	<-19.9> 370	-92
クレメジン 【慢性腎不全用剤】	<-0.5> 28	<4.7> 133	-7	6	CKD診療ガイドにおいて経口吸着薬の位置付けが明確化し、早期投与の有用性も示されたことで新規患者数が増加。	<-2.6> 130	-3
ハンブ 【急性心不全剤】	<7.5> 23	<3.0> 94	-1	3	DPC拡大の影響により市場が縮小する中、急性心不全治療の第一選択薬として市場における優位性を堅持し微増。	<-10.0> 85	-9
リハロ 【高コレステロール血症治療剤】	<10.5> 16	<19.6> 73	-2	12	ストロングスタチン市場の拡大と日本人を対象としたエビデンスの発表により増収。	<9.7> 80	7
サンリズム 【不整脈治療剤】	<-7.5> 23	<-1.3> 115	-5	-2	抗不整脈薬市場が縮小傾向にあり、心房細動治療の第一選択薬としての地位を確保するものの、後発品処方拡大により微減。	<-8.6> 105	-10
ファスティック 【血糖降下剤】	<-6.4> 10	<0.9> 52	-3	0	チアソリジン系薬剤との併用の効果効果を追加。競合グリニド製剤の拡大やDPP-4阻害剤の市場参入により横這い。	<-3.2> 50	-2
クラビット 【合成抗菌剤】	<17.5> 114	<1.5> 436	36	6	市場が低迷する中、2009年7月の高用量発売を契機としたPK/PD理論に基づく耐性菌抑制効果徹底訴求により微増。	<-24.4> 330	-106
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	<19.4> 99	<21.4> 470	-30	83	経口剤市場は厳しい状況が続くものの、パップ剤とテープ剤が高いブランド力と優れた製品性により増収に寄与。	<8.6> 510	40
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	<-9.9> 20	<14.3> 90	-5	11	市場拡大の追い風もあり、高い有用性による院数と処方数が拡大し、増収。	<27.3> 115	25
ジルテック 【抗アレルギー剤】	<-15.1> 30	<2.7> 96	-4	3	花粉飛散量が少なく市場は横ばいであったが、2009年4月に小児適応を取得したことなどにより増収。	<-16.3> 80	-16
オムニパーク 【造影剤】	<-4.8> 55	<-3.7> 273	-7	-10	医療ニーズに合致したラインナップの展開などによりトップシェアを確保するものの、DPC拡大に伴う後発品処方拡大により減収。	<-15.6> 230	-43

7-2. 第一三共ヘルスケア

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
ヘルスケア売上高合計	<-14.1> 86	<-7.4> 437	-43	-35		<10.9> 485	48
ルル類	<12.8> 16	<1.5> 99	-16	1	新製品「ルルアタックEX」の好調等により売上増加。	<16.8> 116	17
ガスター10	<-31.1> 5	<-37.0> 21	-1	-12	改正薬事法施行に伴う取扱店舗減少等により売上減少。	<27.0> 26	6
新三共胃腸薬類	<7.9> 8	<7.8> 35	-1	3	「新三共胃腸薬プラス」が順調に推移し売上増加。	<4.6> 37	2
パテックス類	<-11.6> 4	<-9.3> 24	-3	-2	競合環境が厳しく売上減少。	<4.4> 26	1
トランシーノ	<96.4> 3	<-39.9> 9	1	-6	改正薬事法施行に伴う取扱店舗減少等により売上減少。	<56.0> 14	5

7-3. 第一三共 Inc. (米国)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
第一三共 Inc. (DSI)	<15.2> 321	<2.9> 1,330	-10	37		<9.0> 1,450	120
mil USD	<18.0> 354	<11.4> 1,433	-13	147		<12.5> 1,611	178
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	<11.7> 219	<1.8> 889	9	16	アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤 (ARB) 市場の処方箋ベースでの伸長率が鈍化する中、ベニカー/ベニカーHCTは積極的なプロモーションを展開し、新規処方箋ベース及び金額 (現地通貨) ベースでも順調な拡大を実現した。	<0.6> 895	6
mil USD	<14.8> 242	<10.2> 958	8	89		<3.8> 994	37
エイゾール 【高血圧症治療剤】	<29.7> 29	<47.2> 128	-2	41	特色のある製品としてのポジションを確立するべく、プロモーションを展開し、処方箋ベースで競合品の伸長率を上回る成長を遂げた。	<1.7> 130	2
mil USD	<35.4> 32	<59.4> 138	-3	51		<5.0> 144	7
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤 /2型糖尿病治療剤】	<28.2> 68	<12.4> 275	5	30	高コレステロール血症と2型糖尿病の両方に適応を持つ唯一の薬剤としての特徴を生かしたプロモーションを強化。また、懸濁用剤 (パウダー) が処方拡大に貢献した。	<3.5> 285	10
mil USD	<31.4> 75	<21.7> 296	5	53		<6.8> 317	20
エフィエント (共同販促収入) 【抗血小板剤】	<-> -11	<-> 1	-	1	フォーミュラー掲載や病院における採用が順調に進行した。また、2010年1月より総合情報概要を活用した積極的なプロモーションを開始した。今後、処方獲得のための活動を一層強化していく。	<-> -	
mil USD	<-> -11	<-> 1	-	1			

エフィエントについては実績値のみ開示しております。

プラスグレル共同販促収入の本補足資料における開示を見直した結果、第3四半期までの修正額 -10億円 (従前開示 11億円、修正開示 1億円、修正額 -10億円) を第4四半期実績に含めております。

なお、連結売上高等業績は従前より正しく計上しており、変更ありません。

7-4. ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国)

(単位：億円)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
ルイトポルド (LPI)	<18.9>	<1.9>				<-9.8>	
mil USD	127	521	6	10		470	-51
	<21.4>	<10.3>				<-6.9>	
	140	561	5	52		522	-39
ヴェノファー 【貧血治療剤】	<17.0>	<0.3>			世界最大の透析チェーン企業フレゼニウス社との米国透析市場における独占的サブライセンス契約により、同社でのシェアの拡大が継続。LPIが注力している非透析市場においても血液専門医や病院市場向けの販促活動が奏功し、順調に売上を拡大した。	<-16.0>	
mil USD	80	322	12	1		270	-52
	<19.8>	<8.6>				<-13.4>	
	89	346	12	28		300	-46

7-5. 第一三共ヨーロッパGmbH (欧州)

(単位：億円)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	<9.7>	<7.1>				<0.4>	
mil EUR	204	752	-18	50		755	3
	<9.8>	<17.1>				<9.7>	
	161	574	-9	84		629	56
オルメテック/ オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<17.7>	<6.5>			主要国において販促活動を強化し、現地通貨ベースでは単剤、配合剤ともに順調に売上が拡大した。また、共同販売パートナーの売上も堅調に推移し、ARB市場の平均伸長率を上回る成長となった。	<2.7>	
mil EUR	114	399	-11	24		410	11
	<17.2>	<16.5>			<12.3>		
	90	304	-6	43	342	37	
セビカー 【高血圧症治療剤】	<156.5>	<189.3>			2009年1月ドイツで発売以降、欧州各国において順調に販売国を増やし、安全性と有効性に優れる本剤の販促活動を行い順調な売上拡大となった。	<50.0>	
mil EUR	20	63	8	41		95	32
	<166.6>	<216.5>				<64.0>	
	16	48	7	33	79	31	
エピスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<-4.6>	<-23.6>			2008年2月にイーライリリー社より販売権を追加獲得し、現在、欧州34カ国で展開。以降、各国での販売体制を順次自社販促活動に移行し、売上維持に向けた取り組みを行ったが、売上は減少傾向。	<-12.7>	
mil EUR	21	92	-8	-28		80	-12
	<-10.1>	<-16.4>				<-4.6>	
	17	70	-6	-14	67	-3	

【参考】 エフィエント (欧州) 共同販促収入

エフィエント 【抗血小板剤】	<->	<->			2009年3月にイギリス、ドイツにて販促開始。現在、欧州9カ国で発売中で、処方獲得に向けた活動を強化遂行中。
mil USD	4	5	-	4	
	<->	<->			
	4	5	-	5	

欧州のエフィエント共同販促収入は第一三共単体に計上されており、上記DSEの売上には含まれません。

エフィエントについては実績値のみ開示しております。

7-6. アジア/中南米 (ASCA)

(単位：億円)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
ASCA合計	<27.5> 77	<12.1> 258	8	28	為替影響を除外すると +25.1%の伸長	<8.6> 280	22
第一三共製薬 (北京) (DSBJ)	<1.4> 9	<2.0> 41	2	1	現地通貨ベースでは +10.9%の伸長 クラビットの伸長に加え、DSSH品 (セフメ タゾン、カルベニン) の販促も加速。	<-4.9> 39	-2
第一三共製薬 (上海) (DSSH)	<34.0> 15	<38.4> 53	3	15	現地通貨ベースでは +50.4%の伸長 DSSH販促品に加え、DSBJが販促するセフ メタゾン、カルベニンの大幅伸長などが寄 与。	<26.7> 67	14
台湾第一三共 (DSTW)	<-4.5> 7	<-10.7> 31	-1	-4	現地通貨ベースでは -2.0%の減 オルメサルタンが伸長。2009年8月にはセビ カーを上市。09年10月の薬価改定により- 22%の影響。	<-0.5> 31	0
韓国第一三共 (DSKR)	<38.9> 9	<13.7> 34	0	4	現地通貨ベースでは +26.2%の伸長 クラビットおよびオルメテックの共同販促収 入の拡大に加え、2009年6月に上市したセビ カーの売上が寄与。	<39.4> 47	13
第一三共タイ (DSTH)	<27.4> 3	<7.7> 9	-1	1	現地通貨ベースでは +15.9%の伸長 クラビット750mg注の投入によるクラビット の売上拡大に加え、メハロチンの自販開始が 寄与。	<55.1> 14	5
第一三共ブラジル (DSBR)	<18.4> 16	<-5.2> 47	6	-3	現地通貨ベースでは +14.9%の伸長 配合剤 (オルメサルタン+アムロジピン) がベ ニカー製品群の伸長を牽引。	<19.0> 56	9
第一三共ベネズエラ (DSVE)	<76.3> 17	<47.9> 41	-1	13	現地通貨ベースでは +62.8%の伸長 ベニカー製品群の売上伸長が業績拡大に貢 献。	<-30.6> 29	-13

第一三共ベネズエラは、現地通貨ベースでは2010年度も+40%を超える増収の計画ですが、為替変動の影響により日本円ベースでは減収の見込みです。

7-7. ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd.

(単位：億円)

	2009年度実績					2010年度予想	
	第4四半期	年度	対公表 (1月)	前同 増減	(08→09増減)	年度	前同 増減
ランバクシー	<14.9> 444	<279.3> 1,466	-	1,079		<12.6> 1,650	184

8. 要員数の推移

(単位：名)

	2008年度	2009年度	
	3月末	9月末	3月末*
連結要員数	28,895	29,272	29,825
国内要員数	9,148	9,323	8,892
海外要員数	19,747	19,949	20,933

	2008年度		2009年度			
	3月末	営業担当者数 (MR)	9月末	営業担当者数 (MR)	3月末*	営業担当者数 (MR)
連結要員数	28,895		29,272		29,825	
【日本】						
第一三共	5,960	2,400	6,042	2,400	6,028	2,400
第一三共ヘルスケア	401	150	396	150	391	150
【米国】						
第一三共Inc.	2,875	1,800	2,933	1,800	2,940	1,800
ルイトボルド社	477	70	490	70	611	80
【欧州】						
第一三共ヨーロッパGmbH	2,436	1,350	2,471	1,360	2,432	1,340
【アジア/中南米】						
第一三共製薬（北京）	459	158	479	175	490	178
第一三共製薬（上海）	504	208	553	243	565	247
台湾第一三共	158	69	161	68	163	70
韓国第一三共	98	49	97	49	98	50
第一三共タイ	44	18	45	18	54	30
香港第一三共	7	-	7	-	7	-
第一三共ブラジル	292	112	312	117	307	119
第一三共ベネズエラ	131	80	156	86	141	84

	2008年度	2009年度	
	3月末	9月末	3月末*
ランバクシー社グループ	12,174	12,127	12,995

* 会計期間の異なる海外子会社については12月末要員数

9. 主要経営財務指標

	2008年度実績		2009年度実績		(単位：億円)
	第2四半期 累計期間	年度	第2四半期 累計期間	年度	2010年度 予想 年度
経営指標					
配当性向（連結）	83.9%	-	113.0%	100.9%	93.9%
純資産配当率（DOE）	-	5.4%	-	4.9%	-
1株当たり利益（EPS）	47.7円	-304.2円	26.6円	59.4円	63.9円
1株当たり配当金	40.0円	80.0円	30.0円	60.0円	60.0円
配当金総額	281	563	211	422	-
自己資本当期純利益率（ROE）	-	-20.5%	-	4.9%	-
1株当たり純資産（BPS）	1,683.8円	1,226.0円	1,213.8円	1,215.6円	-
自己資本比率	83.9%	57.7%	58.5%	57.4%	-
自己株式取得（株式数）	15,021千株	15,044千株	-	-	-
自己株式取得	458	458	-	-	-
期末発行済株式総数*	704百万株	704百万株	704百万株	704百万株	-
期末株価（終値）	2,695円	1,648円	1,853円	1,751円	-
時価総額	18,973	11,602	13,044	12,326	-
財務指標					
総資産	14,123	14,946	14,603	14,895	
流動資産	8,575	7,835	7,715	8,198	
有利子負債	-	3,273	3,185	2,909	
自己資本	11,853	8,631	8,544	8,557	
営業CF	188	784	396	1,302	
投資CF	-1,980	-4,139	549	426	
財務CF	-710	981	-420	-891	
フリーキャッシュフロー**	-1,793	-3,355	945	1,729	
現金および現金同等物期末残高	1,921	1,778	2,276	2,592	
手元流動性 (現預金+有価証券+投資有価証券他)	3,851	3,642	3,412	3,583	
連結子会社数	43社	98社	96社	99社	

*自己株式を除く

**営業CF+投資CFで算出しております

10. 設備投資および減価償却費

	2008年度実績		2009年度実績		(単位：億円)
	第2四半期 累計期間	年度	第2四半期 累計期間	年度	2010年度 予想 年度
減価償却費	193	406	220	459	485
設備投資（工事ベース）	77	196	140	297	450

11. 単元株式の所有者別状況

	2009年3月末			2009年9月末			2010年3月末		
	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比	株主数 (名)	所有株式数 (百万株)	構成比
政府及び地方公共団体	2	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%
金融機関	185	347	49.0%	188	326	46.1%	172	310	43.8%
金融商品取引業者	72	10	1.5%	86	19	2.7%	84	19	2.6%
その他の法人	738	45	6.5%	800	46	6.5%	793	46	6.5%
外国法人等	698	200	28.3%	672	199	28.3%	619	212	29.9%
個人・その他	75,205	99	14.0%	94,070	111	15.7%	98,454	116	16.4%
自己株式	1	5	0.7%	1	5	0.7%	1	5	0.7%
合計	76,901	708	100.0%	95,819	708	100.0%	100,125	708	100.0%

12. 連結貸借対照表

〈資産の部〉

(単位：億円)

	2009.3.31		2010.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
流動資産	7,835	52.4	8,198	55.0	363	
現金及び預金	766		1,010		244	手元流動性（現預金＋有価証券＋投資有価証券他）
受取手形及び売掛金	1,955		2,119		164	合計 3,583億円 <対09年3月期末 -59億円>
有価証券	2,355		2,365		11	【内容】 当期純利益 419億円 配当金支払 493億円 等
たな卸資産	1,395		1,432		38	たな卸資産1,432億円の内訳 【内訳】 商品及び製品 917億円 仕掛品 168億円 原材料及び貯蔵品 347億円
繰延税金資産	767		870		102	
その他	608		418		-190	法人税（前期納付）の還付
貸倒引当金	-10		-17		-7	
固定資産	7,111	47.6	6,698	45.0	-413	
有形固定資産	2,501	16.7	2,495	16.8	-6	
建物及び構築物	1,327		1,266		-61	
機械装置及び運搬具	460		445		-15	
土地	424		426		3	
建設仮勘定	133		223		90	
その他	157		135		-22	
無形固定資産	1,926	12.9	1,809	12.1	-117	
のれん	774		738		-36	U3ファーマ社償却 -50億円 ランバクシー社償却 -24億円
その他	1,152		1,071		-81	ランバクシー社償却、欧州エピスタ販売権償却等
投資その他の資産	2,684	18.0	2,393	16.1	-291	
投資有価証券	1,537		1,370		-167	
長期貸付金	6		1		-5	
前払年金費用	69		39		-30	
繰延税金資産	916		818		-98	
その他	159		169		10	
貸倒引当金	-3		-3		0	
資産合計	14,946	100.0	14,895	100.0	-51	

<負債及び純資産の部>

(単位：億円)

	2009.3.31		2010.3.31		増減	増減内容
		構成比		構成比		
負債合計	6,060	40.5	6,000	40.3	-60	
流動負債	5,085	34.0	2,688	18.0	-2,397	
支払手形及び買掛金	594		665		71	
短期借入金	2,643		200		-2,444	社債、長期借入金への借換え
未払法人税等	82		106		24	
返品調整引当金	6		6		0	
売上割戻引当金	27		14		-13	
偶発損失引当金	-		16		16	
その他	1,733		1,681		-52	
固定負債	974	6.5	3,312	22.2	2,337	
社債	-		1,000		1,000	
転換社債型新株予約権付社債	471		495		25	
長期借入金	159		1,214		1,055	
繰延税金負債	54		292		238	
退職給付引当金	106		123		17	
役員退職慰労引当金	2		1		0	
環境対策引当金	1		-		-1	
その他	182		186		4	
純資産	8,886	59.5	8,895	59.7	9	
株主資本	8,945	59.8	8,870	59.6	-74	
資本金	500		500		0	
資本剰余金	1,052		1,052		0	
利益剰余金	7,538		7,464		-74	配当金支払 -493億円 当期純利益 +419億円
自己株式	-146		-146		0	
評価・換算差額等	-314	-2.1	-313	-2.1	1	
その他有価証券評価差額金	199		275		76	
繰延ヘッジ損益	1		10		9	
為替換算調整勘定	-514		-598		-84	
新株予約権	24	0.2	33	0.2	9	
少数株主持分	232	1.6	305	2.0	73	
負債純資産合計	14,946	100.0	14,895	100.0	-51	

13. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2008年度	2009年度	増減	増減内容
税金等調整前当期純利益	-3,083	974	4,056	
減価償却費	406	459	54	
減損損失	31	21	-10	
のれん償却額	3,718	89	-3,629	--- 2008年度 ランバクシー社ののれん一時償却
デリバティブ評価損益	205	-172	-377	
前払年金費用の増減額	11	30	19	
為替差損益	104	-26	-130	
売上債権の増減額	47	-154	-200	
たな卸資産の増減額	-21	-28	-7	
仕入債務の増減額	-3	64	67	
未払金及び未払費用の増減額	35	62	27	
法人税等の支払額	-586	-304	282	
その他	-79	286	365	--- 法人税（前期納付）の還付
営業活動によるキャッシュ・フロー	784	1,302	519	
短期運用資産の増減額	365	827	462	
固定資産の取得・売却等	-423	-277	146	
投資有価証券の増減額	-105	-1	103	
子会社株式の取得による支出	-4,113	-159	3,953	--- FY2008: Investment in U3 Pharma and Ranbaxy
その他	137	37	-99	
投資活動によるキャッシュ・フロー	-4,139	426	4,565	
借入金の増減額	1,973	-1,394	-3,367	--- 社債発行による資金調達に伴う借入金の減少
社債の発行による収入	-	997	997	--- 5年債、10年債の発行（社債発行費用を控除）
自己株式の取得による支出	-458	-0	458	
配当金の支払額	-533	-493	40	
その他	-1	-2	0	
財務活動によるキャッシュ・フロー	981	-891	-1,872	
現金及び現金同等物に係る換算差額	-291	-23	268	
現金及び現金同等物の増減額	-2,665	814	3,480	
現金及び現金同等物の期首残高	4,443	1,778	-2,666	
連結範囲の変更による増減額	-0	-	0	
現金及び現金同等物の期末残高	1,778	2,592	814	

MEMO



第一三共株式会社

14. 主要開発パイプラインの状況




第一三共グループ主要開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor/Sevikar Welchol Effient/Efient オルメテック レザルタス カルプロック アーチスト メハロチン クレミジン ハンブ リハロ サンリスム ヘプリコール	DB-772d (経口抗Xa剤)	☆CS-866CMB(日) (オルメサルタンとヒトロカロキサンの配合剤) DU-176b(米/欧) (エドキサバン/静脈血栓塞栓(術後)/経口抗Xa剤) CS-747(日) (プラスグレル/抗血小板剤)
糖尿病	Welchol ファステック		CS-1036(日/亜) (糖吸収阻害剤)
癌	トボテシン クレスチン	U3-1287(米) (抗HER3抗体) CS-1008(日) (Tigatuzumab/抗DR5抗体) CS-7017(日/亜) (PPARγ活性化剤)	CS-1008(米/欧) (Tigatuzumab/抗DR5抗体) CS-7017(米/欧) (PPARγ活性化剤) DE-766(日) (ニモズマブ/抗EGFR抗体) ARQ 197(米/欧) (c-Met 阻害剤)
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クラビット	CS-8958(米/欧) (ラニナミビル/抗インフルエンザ/ピオタと共同開発) CS-4771 (敗血症治療剤)	
骨・関節	ロキソニン モービック		
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777 (免疫抑制剤)	SUN13834(米) (キマーゼ阻害剤)
その他	Venofer Evoxac オムニパーク オムニスキャン ピジパーク ソナゾイト フエロン ユリーフ		SUN11031(米/欧) (ヒトグレリン/カヘキシア) ☆DD-723-B(日) (ペルフルプタン/超音波造影剤)

☆効能追加、剤形追加等

2010年1月(2010年度第3四半期決算発表)以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) : DU-176b(VTE/米欧日亜/P3)、CS-7017(PPARγ活性化剤/日亜/P1)、CS-4771(敗血症治療剤/P1)
- ステージの変更 : DU-176b(静脈血栓塞栓(術後)/日/申請)、CS-8958(治療/日/申請)、SUN Y7017(アルツハイマー型認知症/日/申請)、CS-1036(糖吸収阻害剤/日亜/P2)
- 中止 : ☆CS-866CMB(日)

Phase3	承認申請中
<p>☆CS-747(米/欧) (プラスグレール/ACS-MM/抗血小板剤)</p> <p>DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/AF/経口抗Xa剤)</p> <p>DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/VTE/経口抗Xa剤)</p> 	<p>☆CS-8635(米/欧) (オルメサルタン、アムロジピン、ヒドロクロチアジドの配合剤)</p> <p>DU-176b(日) (エドキサバン/静脈血栓塞栓(術後)/経口抗Xa剤)</p>
<p>☆CS-8958(日) (ラニナミビル/予防/抗インフルエンザ)</p> 	<p>☆レボフロキサシン注(日) (ニューキノロン剤)</p> <p>CS-8958(日) (ラニナミビル/治療/抗インフルエンザ)</p>
<p>AMG 162(日) (Denosumab / 癌骨転移、骨粗鬆症/抗RANKL抗体)</p>	<p>☆CS-600G(日) (ロキソプロフェン/ゲル製剤)</p>
<p>SUN11031(日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症)</p> 	<p>KMD-3213(中国) (シロドシン/排尿障害改善剤)</p> <p>SUN Y7017(日) (メマンチン/アルツハイマー型認知症)</p>

循環器

【原則P2以降の開発品を掲載しています】

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-747	ブラスグレール	経口	抗血小板剤	①急性冠症候群 ②脳梗塞	第一三共 宇部興産	米欧 日	①P3、②- ①P2、②P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血小板表面でP2Y12アデノシン三リン酸(ADP: adenosine diphosphate)受容体を遮断し、血小板の活性化および凝集を抑制する。 ・米国、欧州はイーライリリーとの共同開発。日本は自社開発。 ・2008年6月より、新たに血管再建術を予定していない急性冠症候群患者(ACS-MM)を対象として、薬剤治療試験の第3相試験(TRILOGY)を実施中。 ・血管再建術(PCI)を実施した急性冠症候群(ACS-PCI)の治療薬として、2009年2月に欧州、2009年7月に米国で承認取得。 ・日本では特機的PCI患者、慢性期脳梗塞患者を対象とした第2相試験を実施中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DU-176b	エドキサバン トシル酸塩水和物	経口	抗Xa剤	①心房細動に伴う心原性脳梗塞の予防(AF) ②静脈血栓塞栓症(VTE) ③術後静脈血栓塞栓症	第一三共	米欧 日	①P3、②P3、③P2 ①P3、②P3、③申請
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液が凝固する過程で重要な役割を果たす血液凝固第Xa因子を阻害する。 ・ヒトにおける高い経口吸収性が認められた1日1回投与が可能な経口抗Xa剤である。 ・前臨床試験および臨床試験において、肝機能異常を引き起こす可能性が低いことを確認している。 ・2008年11月より心房細動を対象とした第3相国際共同試験(ENGAGE AF-TIMI 48)を開始。 ・2009年12月に膝関節置換術患者を対象とした静脈血栓塞栓症の予防効果についてのトップラインリザルトを公表。 ・2010年1月より深部静脈血栓/肺塞栓症患者における静脈血栓塞栓症予防の第3相国際共同試験(HOKUSAI VTE)を開始。 ・2010年3月に日本で下肢整形外科手術患者における静脈血栓塞栓症の予防適応で承認申請。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-866CMB	オルメサルタン ヒドロクロチアジド	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	日	中止
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オルメサルタン(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)とヒドロクロチアジド(利尿剤)の配合剤。 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 ・利尿剤配合剤の市場性、オルメサルタンとアゼルニジピン(Ca拮抗薬)の配合剤レザルタス®上市などを総合的に考慮し中止。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8635	オルメサルタン アムロジピン ベシル酸塩 ヒドロクロチアジド	経口	アンジオテンシンII受容体拮抗剤 カルシウム拮抗剤 利尿剤	高血圧症	第一三共	米欧	申請
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オルメサルタン(アンジオテンシンII受容体拮抗剤)、アムロジピン(カルシウム拮抗剤)および利尿剤の配合剤。 ・オルメサルタンライフサイクルマネジメントの一環。 ・米国での承認申請: 2009年9月 ・欧州での承認申請: 2009年12月 							

糖尿病

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-1036	-	経口	糖吸収阻害剤	糖尿病	第一三共	日垂	P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンピン分解酵素を阻害し、糖吸収を抑制する。 ・糖尿病患者を対象とした第2相反復投与試験を実施中。 							

癌

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
ARQ 197	-	経口	c-Met阻害剤	-	ArQule	米欧	P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・c-Metは、肝細胞増殖因子HGFの受容体で細胞運動、細胞増殖、アポトーシス誘導、血管新生、浸潤など様々な細胞内シグナル伝達に関与。 ・c-Metの変異は、胃癌、小児肝細胞癌、頭頸部癌で、発現亢進は大腸癌、肝細胞癌、膵臓癌、前立腺癌、乳癌等で認められる。 ・複数の癌種をターゲットとした臨床試験を実施中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-1008	Tigatuzumab	注射	抗DR5抗体	-	第一三共	米欧 日	P2 P1
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒトDeath Receptor 5(DR5)に対するアゴニスティックなマウスモノクローナル抗体であるTRA-8のヒト化抗体。 ・DR5は、ほとんどの正常細胞では発現していないことから腫瘍細胞選択的に作用することが期待される。 ・細胞表面にDR5を発現した癌細胞に対してアポトーシスを誘導する。 ・複数の癌種をターゲットとした臨床試験を実施中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DE-766	ニモズマブ	注射	抗EGFR抗体	-	CIMYM バイオサイエンス	日	P2
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Epidermal Growth Factor Receptor(EGFR、上皮細胞成長因子受容体)に対するヒトモノクローナル抗体。 ・皮膚毒性に関する安全性と他のEGFR抗体に匹敵する有効性から、ベストインクラスのEGFR抗体として期待される。 ・複数の癌種をターゲットとした臨床試験を実施中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-7017	-	経口	PPARγ活性化剤	-	第一三共	米欧 日垂	P2 P1
<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・In vitroにおいて、癌細胞を殺さずその増殖を抑制。従来の化学療法と比べ、安全性の懸念が低いことが期待される。 ・複数の癌種をターゲットとした臨床試験を実施中。 							

感染症

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-8958	ラニナビル オクタン酸エステル水和物	吸入	ノイラミニダーゼ阻害剤	インフルエンザ ①治療、②予防	第一三共	米欧 日	P1 ①申請、②P3
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間作用型のノイラミニダーゼ阻害剤であり、1回の投与のみで治療効果および週1回の投与での予防効果が期待できる。 ・米国、欧州でビオタ社と共同開発。日本では自社開発。 ・インフルエンザウイルスの感染部位である肺、気管に直接作用する吸入剤。 ・2010年1月に日本での治療に対する承認申請。 ・2009年11月より、日本において予防に対する第3相臨床試験を開始。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
レボフロキサシ注	レボフロキサシ水和物	注射	ニューキノロン剤	細菌感染症	第一三共	日	申請
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNAジャイレース活性およびトポイソメラーゼIV活性の阻害により細菌のDNA合成を阻害する。 ・レボフロキサシンの注射剤であり、剤形追加。 ・承認申請：2009年10月 							

免疫・アレルギー

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN 13834	-	経口	キマーゼ阻害剤	アトピー性皮膚炎	アスピオファーマ	米	P2
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥満細胞から放出されるアレルギー反応に関与する内因性蛋白分解酵素であるキマーゼを阻害する。 ・新規メカニズムの経口アトピー性皮膚炎治療薬になると期待される。 							

骨・関節

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
AMG 162	Denosumab	注射	抗RANKL抗体	骨粗鬆症 がん骨転移	アムジェン	日	P3
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨吸収の鍵となるメディエーターであるRANKリガンドを特異的にターゲットとする完全ヒト型モノクローナル抗体。 ・2007年7月アムジェンより導入し、日本国内での開発権取得。 ・骨粗鬆症に対して、第3相臨床試験実施中。症例登録は完了。 ・がん骨転移に対して、第3相国際共同治験に参加。承認申請準備中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム水和物	ゲル	消炎鎮痛剤	変形性関節症 筋肉痛 外傷後の腫脹疼痛	第一三共	日	申請
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作用機序：プロスタグランジン合成抑制作用。作用点：シクロオキシゲナーゼ。 ・自社開発。 ・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤) ・ロキソニン(ロキソプロフェン ナトリウム水和物)の剤型追加。 							

その他

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN Y7017	メマンチン塩酸塩	経口	NMDA受容体拮抗剤	アルツハイマー型認知症	メルツ	日	申請
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である。 ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される。 ・承認申請：2010年2月 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
KMD-3213	シロドシン	経口	α 1A受容体選択的拮抗剤	前立腺肥大に伴う排尿障害改善	キッセイ薬品	中国	申請
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前立腺のα1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べα1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される。 ・日本では、ユリーフの販売名で第一三共、キッセイ薬品が販売。 ・承認申請：2008年12月 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
SUN 11031	ヒトグレリン	注射	-	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ	米欧 日	P2 P3
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在までに発見されている摂食行動に関係するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。 ・米国、欧州では、カヘキシアを対象とした第2相試験を、日本では、神経性食欲不振症を対象に第3相試験を実施中。 							

開発番号	一般名	剤形	薬効	目標適応	オリジン	開発地域	ステージ
DD-723-B	ペルフルプタン	注射	超音波造影剤	前立腺病変の造影 乳腺病変の造影	GEHC	日	P2
<p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本において商品名ソナゾイドで販売。 							

1. 損益計算書

(単位: 億円)

	2008年度			
	第4四半期		年度	
売上高	<16.4> 100.0	2,145	<-4.3> 100.0	8,421
売上原価	29.7	636	25.5	2,144
販管費	74.6	1,601	64.0	5,389
再掲) 研究開発費	25.8	554	21.9	1,845
再掲) 研究開発費以外の販管費	48.8	1,047	42.1	3,543
営業利益	<-> -	-92	<-43.3> 10.6	889
営業外収益		31		123
営業外費用		319		460
経常利益	<-> -	-380	<-67.4> 6.6	552
特別利益		11		38
特別損失		59		3,672
税引前利益	-	-428	-	-3,083
当期純利益	<-> 38.4	823	<-> -	-2,155

	2009年度									
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度					
売上高	<11.5> 100.0	2,271	<20.2> 100.0	2,434	<15.3> 100.0	2,551	<5.6> 100.0	2,264	<13.1> 100.0	9,521
売上原価	27.5	625	30.7	747	29.6	754	28.9	654	29.2	2,780
販管費	60.7	1,378	59.4	1,446	55.1	1,405	68.7	1,556	60.8	5,786
再掲) 研究開発費	19.9	451	20.1	490	18.7	476	24.3	551	20.7	1,968
再掲) 研究開発費以外の販管費	40.8	927	39.3	956	36.4	929	44.4	1,005	40.1	3,818
営業利益	<-33.1> 11.8	268	<11.5> 9.9	241	<7.6> 15.4	392	<-> 2.4	54	<7.5> 10.0	955
営業外収益		39		109		43		91		282
営業外費用		235		-101		51		21		206
経常利益	<-82.5> 3.2	72	<140.0> 18.5	451	<14.4> 15.0	384	<-> 5.5	125	<86.9> 10.8	1,031
特別利益		21		2		15		21		59
特別損失		7		3		25		81		116
税引前利益	3.8	86	18.5	450	14.6	373	2.8	64	10.2	974
当期純利益	<-> -	-64	<182.7> 10.3	251	<-> 8.1	206	<-96.8> 1.2	26	<-> 4.4	419

2. 為替レート

	2008年度	
	年度	
USD/円 (期中平均)	100.5	
EUR/円 (期中平均)	143.5	
INR/円 (期中平均)	2.00	

	2009年度			
	第1四半期	第2四半期累計	第3四半期累計	年度
USD/円	97.3	95.5	93.5	92.9
EUR/円	132.6	133.2	133.0	131.2
INR/円	1.89	1.95	1.95	1.95

3. グローバル製品売上高

(単位: 億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<9.1> 490	<8.0> 2,111
オルメテック (日本)	<28.7> 144	<16.6> 644
ベニカーHCT/ ベニカー (米国)	<1.6> 196	<-0.6> 874
エイソール (米国)	<241.8> 23	<240.7> 87
オルメテックプラス/ オルメテック (欧州) *	<-13.6> 97	<-10.3> 375
セビカー (欧州)	<-> 8	<-> 22
その他子会社/輸出等	<-12.5> 22	<35.6> 110
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-4.6> 226	<-10.2> 977
クラビット (日本)	<-1.2> 97	<-9.2> 430
輸出等	<7.6> 71	<-8.7> 311
特許料	<-26.6> 40	<-17.6> 161
その他子会社	<-2.6> 18	<-4.0> 75
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-15.3> 123	<-20.5> 608
メバロチン (日本)	<-14.3> 100	<-17.6> 507
輸出	<-3.5> 7	<-36.6> 32
欧州子会社*	<-43.9> 7	<-40.7> 40
その他子会社	<7.1> 9	<-7.2> 30

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<10.5> 560	<10.2> 594	<12.3> 647	<19.0> 583	<12.9> 2,383
オルメテック (日本)	<22.1> 190	<26.1> 198	<18.8> 222	<12.5> 162	<20.0> 772
ベニカーHCT/ ベニカー (米国)	<-5.6> 221	<0.5> 222	<2.0> 227	<11.7> 219	<1.8> 889
エイソール (米国)	<121.5> 30	<30.9> 32	<38.6> 36	<29.7> 29	<47.2> 128
オルメテックプラス/ オルメテック (欧州) *	<-0.2> 83	<-3.7> 100	<12.1> 102	<17.7> 114	<6.5> 399
セビカー (欧州)	<-> 9	<-> 12	<56.5> 22	<156.5> 20	<189.3> 63
その他子会社/輸出等	<29.9> 26	<-7.8> 31	<6.2> 37	<71.4> 37	<19.2> 131
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-23.2> 198	<-0.3> 235	<-14.2> 221	<-3.5> 218	<-10.7> 872
クラビット (日本)	<-6.8> 95	<26.7> 119	<-21.0> 108	<17.5> 114	<1.5> 436
輸出等	<-49.6> 48	<-22.7> 64	<-17.6> 51	<-29.5> 50	<-31.5> 213
特許料	<-9.9> 37	<-19.3> 32	<0.7> 41	<-8.8> 36	<-9.3> 146
その他子会社	<-6.4> 18	<2.9> 20	<14.7> 21	<-2.2> 18	<2.2> 77
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-8.5> 147	<-5.2> 150	<-10.8> 148	<-14.9> 105	<-9.6> 550
メバロチン (日本)	<-8.3> 124	<-5.0> 124	<-9.1> 128	<-14.7> 85	<-8.9> 462
輸出	<-37.6> 7	<23.3> 10	<-39.8> 4	<-41.4> 4	<-24.0> 24
欧州子会社*	<11.3> 8	<-34.0> 8	<-37.7> 8	<-4.4> 7	<-21.2> 31
その他子会社	<7.7> 8	<8.4> 8	<37.8> 8	<-4.1> 8	<10.5> 33

* 2007年度は、第一三共ヨーロッパ GmbHの決算期を変更 (12月期→3月期決算) したため、15ヶ月決算 (2007年1月-2008年3月) となっております。
2007年1月-3月の実績は、オルメテック/オルメテックプラス64億円 (€40mil)、プラバスタチン16億円 (€10mil) であります。

プラスグレル (共同販売収入) 【抗血小板剤】	<-> 0.3	<-> 0.3
エフィエント (米国)	-	-
エフィエント (欧州)	<-> 0.3	<-> 0.3

	<-> 0	<-> 10	<-> 3	<-> -7	<-> 5
	<-> -	<-> 10	<-> 2	<-> -11	<-> 1
	<-> 0	<-> 0	<-> 1	<-> 4	<-> 5

7. 主要会社の状況

データのダウンロードは右記URLより www.daiichisankyo.co.jp/ir/highlight/download/index.html

7-1. 第一三共単体

(単位：億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
国内医療用医薬品合計	<2.3> 862	<-4.8> 4,067
循環器関連疾患領域	<-0.6> 499	<-4.8> 2,325
オルメテック 【高血圧症治療剤】	<28.7> 144	<16.6> 644
カルブロック 【高血圧症治療剤】	<17.2> 28	<18.9> 121
アーチスト 【高血圧症治療剤】	<6.8> 49	<3.6> 219
メパロチン 【高リスク心臓病治療剤】	<-14.3> 100	<-17.6> 507
クレメジン 【慢性腎不全剤】	<5.3> 28	<2.9> 128
ハンブ 【急性心不全剤】	<-8.1> 22	<-6.2> 92
リバロ 【高リスク心臓病治療剤】	<16.6> 14	<11.8> 61
サンリズム 【不整脈治療剤】	<-0.3> 25	<-3.6> 116
ファスティック 【血糖降下剤】	<-1.3> 11	<-1.2> 51
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器	<4.6> 300	<-1.0> 1,374
クラビット 【合成抗菌剤】	<-1.2> 97	<-9.2> 430
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	<12.3> 83	<15.1> 387
モービック 【消炎鎮痛剤】	<-18.3> 16	<-17.8> 84
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	<60.5> 22	<46.0> 79
シルテック 【抗アレルギー剤】	<-4.8> 35	<-14.1> 93
造影剤/癌/消化器	<-13.6> 101	<-17.5> 488
オムニパーク 【造影剤】	<-4.7> 57	<-9.1> 283
トボテシン注 【抗悪性腫瘍剤】	<2.1> 14	<0.9> 62

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
国内医療用医薬品合計	<3.7> 1,046	<5.3> 1,048	<-1.4> 1,184	<-1.9> 845	<1.4> 4,123
循環器関連疾患領域	<3.8> 623	<8.2> 619	<3.0> 675	<-1.4> 492	<3.6> 2,408
オルメテック 【高血圧症治療剤】	<22.1> 190	<26.1> 198	<18.8> 222	<12.5> 162	<20.0> 772
カルブロック 【高血圧症治療剤】	<14.5> 35	<18.9> 35	<12.5> 38	<4.7> 29	<12.8> 137
アーチスト 【高血圧症治療剤】	<6.3> 60	<11.3> 59	<6.0> 64	<1.9> 50	<6.5> 233
メパロチン 【高リスク心臓病治療剤】	<-8.3> 124	<-5.0> 124	<-9.1> 128	<-14.7> 85	<-8.9> 462
クレメジン 【慢性腎不全剤】	<5.5> 34	<8.8> 35	<4.3> 37	<-0.5> 28	<4.7> 133
ハンブ 【急性心不全剤】	<1.5> 24	<11.3> 21	<-4.8> 26	<7.5> 23	<3.0> 94
リバロ 【高リスク心臓病治療剤】	<22.8> 18	<25.9> 18	<18.8> 21	<10.5> 16	<19.6> 73
サンリズム 【不整脈治療剤】	<-1.2> 30	<3.4> 30	<-0.8> 32	<-7.5> 23	<-1.3> 115
ファスティック 【血糖降下剤】	<1.8> 14	<7.3> 14	<-0.1> 14	<-6.4> 10	<0.9> 52
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器	<9.4> 337	<16.4> 372	<0.2> 447	<7.8> 324	<7.7> 1,480
クラビット 【合成抗菌剤】	<-6.8> 95	<26.7> 119	<-21.0> 108	<17.5> 114	<1.5> 436
ロキソニン 【消炎鎮痛解熱剤】	<33.0> 112	<19.7> 125	<16.0> 133	<19.4> 99	<21.4> 470
モービック 【消炎鎮痛剤】	<-17.5> 20	<-8.9> 20	<-10.6> 20	<-24.2> 12	<-14.8> 72
ユリーフ 【排尿障害改善剤】	<26.6> 22	<26.1> 22	<19.3> 26	<-9.9> 20	<14.3> 90
シルテック 【抗アレルギー剤】	<18.4> 24	<13.3> 18	<8.8> 24	<-15.1> 30	<2.7> 96
造影剤/癌/消化器	<2.9> 126	<1.7> 127	<-8.7> 127	<-0.7> 101	<-1.5> 481
オムニパーク 【造影剤】	<-2.0> 71	<3.4> 75	<-10.8> 71	<-4.8> 55	<-3.7> 273
トボテシン注 【抗悪性腫瘍剤】	<5.6> 17	<4.6> 16	<-14.2> 15	<-18.8> 11	<-5.5> 59

7-2. 第一三共ヘルスケア

(単位：億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
ヘルスケア売上高合計	<-6.5> 101	<-6.2> 472
ルル類	<-6.9> 14	<-2.2> 98
ガスター10	<-12.6> 7	<-5.5> 33
新三共胃腸薬類	<-12.1> 7	<-5.2> 33
パテックス類	<-9.3> 4	<-10.4> 27
トランシーノ	<-69.6> 1	<-41.4> 15

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ヘルスケア売上高合計	<-6.9> 95	<-2.1> 135	<-8.2> 121	<-14.1> 86	<-7.4> 437
ルル類	<-2.4> 12	<18.9> 43	<-19.5> 28	<12.8> 16	<1.5> 99
ガスター10	<-29.1> 5	<-45.7> 5	<-38.9> 6	<-31.1> 5	<-37.0> 21
新三共胃腸薬類	<26.3> 9	<-1.1> 9	<2.8> 10	<7.9> 8	<7.8> 35
パテックス類	<15.3> 9	<-17.8> 6	<-25.9> 5	<-11.6> 4	<-9.3> 24
トランシーノ	<-62.3> 3	<-72.0> 2	<37.4> 2	<96.4> 3	<-39.9> 9

7-3. 第一三共Inc. (米国)

(単位: 億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
第一三共Inc. (DSI)	<15.3> 279	<1.9> 1,293
mil USD	<27.9> 300	<15.8> 1,286
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	<1.6> 196	<-0.6> 874
mil USD	<14.1> 210	<13.0> 869
エイゾール 【高血圧症治療剤】	<241.8> 23	<240.7> 87
mil USD	<285.1> 24	<287.2> 86
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤/2型糖尿病治療剤】	<4.3> 53	<7.8> 245
mil USD	<17.8> 57	<22.5> 244
エフィエント (共同販促収入) 【抗血小板剤】	-	-
mil USD	-	-

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
第一三共Inc. (DSI)	<-11.2> 330	<5.6> 335	<5.8> 344	<15.2> 321	<2.9> 1,330
mil USD	<-4.6> 339	<21.7> 357	<13.4> 382	<18.0> 354	<11.4> 1,433
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】	<-5.6> 221	<0.5> 222	<2.0> 227	<11.7> 219	<1.8> 889
mil USD	<1.4> 227	<15.6> 237	<9.7> 253	<14.8> 242	<10.2> 958
エイゾール 【高血圧症治療剤】	<121.5> 30	<30.9> 32	<38.6> 36	<29.7> 29	<47.2> 128
mil USD	<138.0> 31	<49.3> 34	<50.9> 40	<35.4> 32	<59.4> 138
ウェルコール 【高コレステロール血症治療剤/2型糖尿病治療剤】	<7.0> 69	<6.6> 65	<10.2> 73	<28.2> 68	<12.4> 275
mil USD	<14.9> 71	<22.8> 69	<18.7> 81	<31.4> 75	<21.7> 296
エフィエント (共同販促収入) 【抗血小板剤】	<->	<->	<->	<->	<->
mil USD	<->	10	2	-11	1
	<->	<->	<->	<->	<->
	-	10	2	-11	1

7-4. ルイトポルド ファーマシューティカルズ Inc. (米国)

(単位: 億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
ルイトポルド (LPD)	<-17.8> 107	<0.1> 511
mil USD	<-5.7> 115	<13.8> 509
ヴェノファー 【貧血治療剤】	<-15.3> 69	<3.1> 320
mil USD	<-2.8> 74	<17.2> 319

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ルイトポルド (LPD)	<-1.1> 134	<-0.4> 135	<-6.4> 126	<18.9> 127	<1.9> 521
mil USD	<6.2> 137	<14.5> 144	<1.1> 140	<21.4> 140	<10.3> 561
ヴェノファー 【貧血治療剤】	<-3.9> 80	<-4.6> 81	<-4.1> 80	<17.0> 80	<0.3> 322
mil USD	<3.2> 82	<9.6> 87	<3.3> 89	<19.8> 89	<8.6> 346

7-5. 第一三共ヨーロッパGmbH (欧州)

(単位: 億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	<2.4> 186	<-9.9> 703
mil EUR	<27.9> 147	<0.8> 490
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<-13.6> 97	<-10.3> 375
mil EUR	<8.5> 77	<0.3> 261
セビカー 【高血圧症治療剤】	<-> 8	<-> 22
mil EUR	<-> 6	<-> 15
メハロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<-43.9> 7	<-40.7> 40
mil EUR	<-25.7> 6	<-33.7> 28
エピスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<57.8> 22	<128.5> 120
mil EUR	<111.8> 18	<155.6> 84

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	<14.1> 173	<-0.4> 184	<6.1> 191	<9.7> 204	<7.1> 752
mil EUR	<40.6> 131	<20.8> 138	<5.9> 144	<9.8> 161	<17.1> 574
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】	<-0.2> 83	<-3.7> 100	<12.1> 102	<17.7> 114	<6.5> 399
mil EUR	<23.0> 63	<16.7> 74	<10.6> 77	<17.2> 90	<16.5> 304
セビカー 【高血圧症治療剤】	<-> 9	<-> 12	<56.5> 22	<156.5> 20	<189.3> 63
mil EUR	<-> 7	<-> 9	<77.6> 16	<166.6> 16	<216.5> 48
メハロチン 【高コレステロール血症治療剤】	<11.3> 8	<-34.0> 8	<-37.7> 8	<-4.4> 7	<-21.2> 31
mil EUR	<37.2> 6	<-20.0> 6	<-36.7> 6	<-9.2> 6	<-13.8> 24
エピスタ 【骨粗鬆症治療剤】	<-24.9> 24	<-27.5> 26	<-31.1> 21	<-4.6> 21	<-23.6> 92
mil EUR	<-7.5> 18	<-12.2> 19	<-32.8> 16	<-10.1> 17	<-16.4> 70

DSEの2007年度実績は、決算期を変更(12月期→3月期決算)したため、15ヵ月決算(2007年1月-2008年3月)となっております。
 なお、2007年1月-3月の実績はDSE全体で141億円(€89mil)、オルメテック/オルメテックプラス、メハロチン、エピスタの製品売上はそれぞれ、64億円(€40mil)、16億円(€10mil)、10億円(€6mil)であります。

【参考】エフィエント(欧州) 共同販促収入

エフィエント 【抗血小板剤】	<->	<->	<->
mil USD	0.3	<->	0.3
	<->	<->	<->
	0.3	<->	0.3

<->	<->	<->	<->	<->
0	0	1	4	5
<->	<->	<->	<->	<->
0	0	1	4	5

欧州のエフィエント共同販促収入は第一三共単体に計上されており、上記DSEの売上には含まれません。

7-6. アジア/中南米 (ASCA)

(単位：億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
ASCA合計	<16> 60	<95> 230
第一三共製薬 (北京) (DSBJ)	<-22.0> 9	<-1.3> 40
第一三共製薬 (上海) (DSSH)	<126.2> 11	<69.0> 38
台湾第一三共 (DSTW)	<-15.5> 8	<-5.4> 35
韓国第一三共 (DSKR)	<-19.7> 6	<-12.4> 30
第一三共タイ (DSTH)	<-13.4> 2	<-1.4> 8
第一三共ブラジル (DSBR)	<-4.2> 14	<13.6> 50
第一三共ベネズエラ (DSVE)	<9.8> 10	<19.0> 28

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ASCA合計	<05> 53	<7.1> 63	<11.7> 66	<27.5> 77	<12.1> 258
第一三共製薬 (北京) (DSBJ)	<-4.3> 10	<7.6> 11	<3.1> 11	<1.4> 9	<2.0> 41
第一三共製薬 (上海) (DSSH)	<48.0> 11	<40.2> 13	<35.2> 14	<34.0> 15	<38.4> 53
台湾第一三共 (DSTW)	<-8.6> 9	<-14.9> 8	<-14.4> 7	<-4.5> 7	<-10.7> 31
韓国第一三共 (DSKR)	<-15.6> 8	<-2.1> 9	<56.8> 9	<38.9> 9	<13.7> 34
第一三共タイ (DSTH)	<-0.9> 2	<-0.4> 2	<4.2> 2	<27.4> 3	<7.7> 9
第一三共ブラジル (DSBR)	<-25.5> 8	<-12.7> 10	<-7.2> 13	<18.4> 16	<-5.2> 47
第一三共ベネズエラ (DSVE)	<35.3> 7	<45.0> 9	<20.7> 8	<76.3> 17	<47.9> 41

7-7. ランバクシー・ラボラトリーズ Ltd.

(単位：億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
ランバクシー	<-> 386	<-> 386

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
ランバクシー	<-> 297	<-> 364	<-> 360	<14.9> 444	<279.3> 1,466

7-8. ASCA各社およびランバクシーのグローバル製品売上高

(単位：億円)

	2008年度	
	第4四半期	年度
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<38.4> 21	<74.2> 73
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-2.6> 18	<-4.0> 75
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<7.1> 9	<-7.2> 30

	2009年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	<42.4> 18	<25.7> 24	<22.7> 25	<50.7> 31	<34.8> 99
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	<-6.4> 18	<2.9> 20	<14.7> 21	<-2.2> 18	<2.2> 77
プラバスタチン 【高コレステロール血症治療剤】	<7.7> 8	<8.4> 8	<37.8> 8	<-4.1> 8	<10.5> 33

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社